

卒業論文要旨

世論力学ガラムモデルにおける偶数人数グループでの社会傾向パラメータ

1240276 山根 春希

The social-norm parameter in even-number group size Galam model of
opinion dynamics

Haruki Yamane

本研究では、集団において意見を統一する際に用いられる多数決について数学的に考えるため、ガラム理論を用いて調べた。

小グループ内での多数決によって意見を決める「浮動型」と賛否いずれかが決まっていて常に意見が不変である「固定型」のいるガラムモデルを用いた。このガラムモデルの母数に対してグループ分けを行った場合の最終的な結果が賛成派と反対派のどちらに収束するのかを数値的に求めることを目的として研究をおこなった。本研究ではグループの数が偶数となるようにグループ分けをおこなった。グループの数が偶数のためグループ内での意見が同数になる場合があり、その場合のショルを巡って、社会全体の雰囲気を表現した「社会傾向パラメータ」を導入する余地がある。

賛成派が自動勝利となる場合の規則性や特徴が、「社会傾向パラメータ」によってどのように結果が変化するのかについて知ることができることが期待できる。